

見発見の版木菩薩虚空蔵 越谷市で

250年前に作られた虚空蔵菩薩像の版木が越谷市平方で発見された。宝暦9年(1759年)の制作であることが記されていた。江戸時代中期にあたり、関係者はこの地域の虚空蔵菩薩信仰の存在を知る手がかりになると見ている。

江戸中期の作

「宝暦9年という年号を見たときには手が離れました」版木を発見したときの思いを振り返るのは河原常美さん(67)。越谷市平方の上沖自治会(千野俊一会長)の集



版木を手にする河原常美さん(左)と加藤幸一さん



菩薩信仰裏づけ

上沖自治会 集会所で 河原常美さん見つける

会所、仏像の台座脇に置かれていた小さな黒い板。ここを所用で訪れた近隣の河原さんが何気なく手にとり観察したところ、江戸時代の虚空蔵菩薩像の版木であることが分かった。同自治会で物置の掃除をした際に出てきて、そのまま放置されていたのだ。河原さんは桐箱製造業。掛け軸の箱作りを多く扱ってきたため、絵や書に触れる機会が多かった。その知識や興味が発見につながった。同集会所は隣寺となつた崇源寺(そうげんじ)の跡に建てられた。現在も虚空蔵菩薩の縁日である毎月13日には自治会の集会が行われているが、13日の意味は誰も知らなかった。仏像も安置されていたが、これは版木の像とはかわらない。版木の像はかつての崇源寺の虚空蔵菩薩像だったと思われる。同市郷土研究会副会長の加藤幸一さんは「文献には見られなかった、江戸時代この地域の虚空蔵菩薩信仰の存在が確かめられるという大きな発見者があったのではない



見です。上沖自治会の13日の集会が江戸時代から続いた伝統であることも分かった」と話す。

発見された虚空蔵菩薩像の版木(左)とその版画(右)かと見ている。「明治初期の神社をあげて仏教を排斥しようとする、いわゆる廃仏毀釈(はいぶつきしやく)の運動によって、崇源寺は廃寺となり、その際に虚空蔵菩薩像も紛失したのではないかと加藤さんは推測する。」

上沖自治会の千野会長は、版画のオリジナルを集会所に掲げ、コピーを自治会の14人の班長に渡して回覧してもらう予定だ。「郷土の歴史を新しく移り住んできた方々にも伝えて行くのが自分たちの役目だと思っていま

す」と話している。版木は地元林西寺に納められた。(加藤 誠)と

第18回やしお

「このまち好きです。ふるさとまつり」をテーマに、第18回やしお市民まつりが25日午前9時から、市役所周辺、けやき通りをメイン会場で開催される。前日24日には、関連イベントで、わんぱく相撲大会(市文化スポーツセンター)、スタライトラライブ(午後3時~8時、八潮駅構内自由通路)も行われる。けやき通りでは、ハ

虚空蔵菩薩を彫刻 お守り札か

集会所、仏壇から 250年前の版木発見

越谷市平方で古くから使われている平方・上沖自治会集会所で、クスノキの古い版木(縦約30センチ、横約21センチ、厚さ約2センチ)が見つかった。表に美しい線で描かれた虚空蔵菩薩(ぼさつ)の像が彫られ、裏には250年前の「宝暦9年」の文字が彫刻されている。鑑定した越谷市郷土研究会の副会長加藤幸一さん(58)は「かつてここにあった崇源寺が発行したお守り札を刷った版木だろう。大変貴重な発見だ」と話している。(岸鉄夫)

越谷 平方・上沖自治会

同集会所で8月30日、月1度の寄り合いがあった。参加した桐箱製造業の河原常美さん(67)が、集会所の仏壇の脇に置かれた古ぼけた板に気付いた。

「これは何だといって聞くと、掃除して出てきたと言った。何げなく手に取って、一目で立派な彫り物だと分かった。墨で真っ黒な逆の文字だが、虚空蔵菩薩と読めた」

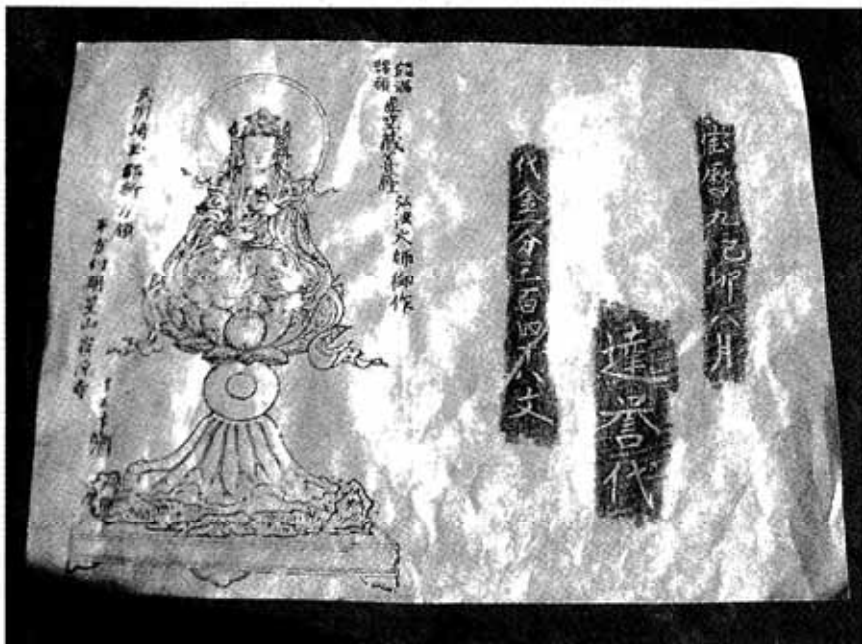
河原さんは越谷市商工会の専務で顔が広い。郷土研究会の宮川進会長に連絡、副会長の加藤さんが飛んできた。

地域の歴史研究に取り組む加藤さんの話で、同集会所のある場所が江戸時代は崇源寺(現在は廃寺)という寺だったことが分かった。

さらに、平方・上沖地区の人たちは今も毎月13日の晩にこの集会所に集まり、仏壇に手を合わせ、けんちん汁とご飯を食べ



見つけた版木を持つ河原常美さん



「かつてはお酒を飲んだ。今はご飯だけ。子どものころは白飯が珍しい時代。いつも麦飯だったが、虚空蔵さまでは白飯でした」と農業中村宣通さん(67)。

加藤さんは「宝暦9年は1759年。この版木は、地区の人たちの虚空蔵さまの集まりが250年前にもあったというのを物語る。しかも、このような美しいままの形で発見された」とは奇跡と話す。加藤さんによると、江戸幕府が作させた「新編武蔵風土記稿」に崇源寺についての記載がある。本尊は阿弥陀如来で、一時弱まった寺を再興した「中興開山」が円善上人(1616(元和2)年に他界)という。

崇源寺がいつ開山されたか、いつこの廃寺になったのかは分からないという。

しかし、集会所の庭には「中興」の文字が読める古い大きな墓石がある。加藤さんは「円善上人の墓石かもしれない」とみる。

版木は、河原さんが作った桐箱に納め、近くの林西寺に預けられた。崇源寺の親寺に当たり、600年の歴史を誇る。屋根の瓦や扉に葵(あおい)の御紋を掲げ、徳川家康と縁が深いという。

33代目住職の高志光大さん(34)は「250年の時を超えた地域の人々のきずな、不思議な縁を感じます。崇源寺のことはこれから調べてみたい」と話した。

版木から刷った虚空蔵菩薩像(左)と裏面の文字(右)。地元で酒造を営む高橋誠さんが苦労して刷り上げた



宋曆九月廿八日

達譽代

代金一分三百四十八文